

『打つ手は諦めないこと』

打つ手がないと、行き詰まってしまい、諦めるか、キレるかの判断しか出来なくなってしまうがちですが、実は、それまででない閃きが訪れる前兆かも知れません。

その良いお手本として、弘法大師さまは、常に困難な状況を好転させ、大陸に渡る時も、帰って来られてからも、決死の覚悟で密教を私たちに伝えてこられました。

今も尚、奥の院にご入定されながら、私たち一人一人に寄り添い命が生まれ続ける限り、諦めることは無いとおっしゃいました。有りがたいことです。

今日、世情が特に不安定な方向に向か

っています。大きな変化の前には、大きな困難がつきまといまいます。お大師さまのおこころに従い、私たちも、百年、千年の計を覚悟し、この困難に立ち向かっていきましよう。

その為にも、平成年の高野山二十七年開創法会は、一宗教団体の行事では無く、この世の全ての命が輝き、相互供養、相互礼拝を体現する大切な道標となるよう、皆が当事者意識を持たなければなりません。

打つ手はこころの底から、無いはずの手が忽然と、きつと現れて来ます。諦めない事が一番の打つ手なのではないでしょうか。

平成二十四年十月

川上修詮記